



アド連だより

第19号

平成31年5月1日

発行：全日本青少年育成アドバイザー連合会

編集：広報委員会



多くの仲間ができました。

平成30年度全日本青少年育成アドバイザー連合会主催の「後継者養成講座」が、平成31年2月22日(金)～24日(日)にかけて、東京の国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、開催されました。

受講者は北海道から沖縄までの総勢47名の受講者で、朝から晩まで楽しく講座を受講しました。多くの仲間ができたようです。



総会・研究集会のご案内

日時：平成31年6月23日(日)～24日(月)

場所：ツネイシしまなみビレッジ

〒720-0402, 広島県福山市, 沼隈町中山南26-1



養成講座開会式あいさつ



みなさん、こんにちは。

ようこそ、この青少年育成アドバイザー養成講座にご参加下さいました。

北は北海道から南は沖縄まで、全国の各地から、資格取得23名。フットボールの為に23名。併せて46名の参加を頂きました。心から感謝申し上げます。

この講座開設にあたり、後継者養成委員会を中心とした実行委員会やアド東京会の皆様には、大変なご尽力をいただき、この日を迎えることができました。ありがとうございました。

更に内閣府・全国青少年育成県民会議連合会をはじめ、特に、国立青少年教育機構様から夢基金のご支援、そして・全国社会教育委員連合様・全国生涯学習の町づくり協会様など、多くの皆様のお支えをいただき、心から敬意と感謝を申し上げます。

特に本日、ご多用にも関わりませず、今年もご臨席をいただきました、国立青少年教育機構の平下理事様、心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、昨今では、宮城県仙台市ではいじめを苦にしての親子心中。更には千葉県野田市で小学4年生が父親による虐待で無残に殺されるなど、極めて痛ましい形で未来ある子どもの尊い命が奪われてしまう事件が増えてきております。

一方、テニスの大坂なおみ選手の快挙は私も感激しました。決勝戦2セット目5:3でリードし、これは勝った、優勝だと思いましたが、相手の執念の粘りで2セット目を落として休憩に。..大坂選手はトイレに行き、いらだつ自分を反省し、もっと謙虚になれ、自分はそんなに偉い人間か？と自分を戒め3セット目に臨んだと云います。正に自分に勝って遂に優勝しました。

また、先日水泳の池江選手は白血病を自ら告白し「神様は乗り越えられない試練は絶対に与えられない。必ず乗り越えられる」と自分に言い聞かせています。これらの若者の力強さは、正に日本の希望であります。...私達は、この狭間で青少年育成運動に取り組んでいます。

我が国では、古来から「子は親の鏡」と言われ「青少年は社会を写す鏡」とも言われております。つまり、子ども達の姿は、大人社会を反映したものであり、子ども達に問題があるとすれば、それは私達大人社会に責任があるということでもあります。

いま、子ども達は①規範意識や人間関係づくり、更に不満耐性等の力が低下しており、②親子関係の希薄化も指摘されております。また③問題行動の多様化や④不登校、ニート、引きこもりなど社会とかかわることのできない子ども・若者や、発達障害児への理解と対応など、様々な課題もあります⑤ネット被害やいじめ・虐待など人権にかかわる問題や⑥自殺や殺人など若い尊い命が奪われる問題など、憂慮すべき事件も発生しております。

更に、少子高齢化する社会の中で、青少年人口の減少や地方の活力の低下など、国の将来に大きな不安を投げかけています。

私たちは、これらの山積する諸問題の解決に挑戦して行かなければなりません。

私は、青少年育成で大切な事は「いつも夢と希望を持ち、社会の一員として、逞しく生き抜く力を備えた人間づくり」であると考えています。

皆さんが、この養成講座の中で、現代社会を見つめ、青少年育成に関する課題を学び、我々の成すべきことを見つけ出し、それを心に刻んで、地域に帰り、仲間と強く結び合って、運動を継続して下さる様、強く期待をしております。

この講座が、稔り多きものでありますよう、心から念じて、主催者を代表してのご挨拶と致します。...共に頑張りましょう。

養成講座開会式あいさつ

一般社団法人全国社会教育委員連合 副会長・
常務理事 馬場祐次郎 様

平成30年度青少年育成アドバイザー養成講習会の開講式に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

今日、我が国では、少子高齢化、核家族化、都市化など社会の急激な変化を背景として、地域においては、地域活性化、防災・減災、健康福祉など様々な課題が生じています。

特に、科学技術の急速な進歩や高度情報化、グローバル化、価値観の多様化、社会全体の規範意識の低下など青少年を取り巻く環境の大きな変化は、学校におけるいじめの増大と低年齢化や、親の育児放棄・子供に対する虐待など、極めて深刻な問題を引き起こす要因とも指摘されており、これまでも増して青少年の健全な育成への取組が、喫緊の課題となっています。

そのような中、全国各地において、地域の高齢者、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、学校を核とした地域の再構築を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して様々なプログラムを展開する「地域学校協働活動」への取組が活発化しているところです。

また、昨年12月には、中央教育審議会から「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」という答申が出されました。この中で、「持続可能な社会づくりを進めるために、住民自らが担い手として地域運営に主体的に関わっていくことが必要」と指摘した上で、「学び」と「活動」の循環による人づくり、つながりづくり、地域づくりが一層重要であると提言しています。

本日から始まる「青少年育成アドバイザー養成講習会」は、今日的な青少年健全育成の課題に関する専門的知識や技術を学ぶ内容となっており、まさしく時宜を得たものであると考えます。本講習会にご参加の皆様方におかれましては、今後、ここで学んだ成果を生かし、青少年健全育成のリーダーとして、それぞれの地域において、次代を担う青少年のためご活躍いただくことを心から期待しています。

結びに、今回の講習会の開催にご尽力されました全日本青少年育成アドバイザー連合会の関係者の皆様方のこれまでのご労苦に感謝申し上げますとともに、我が国における青少年健全育成の取組の益々の充実・発展を祈念して、私のご挨拶とさせていただきます。

課題別研究 みんなの知恵で



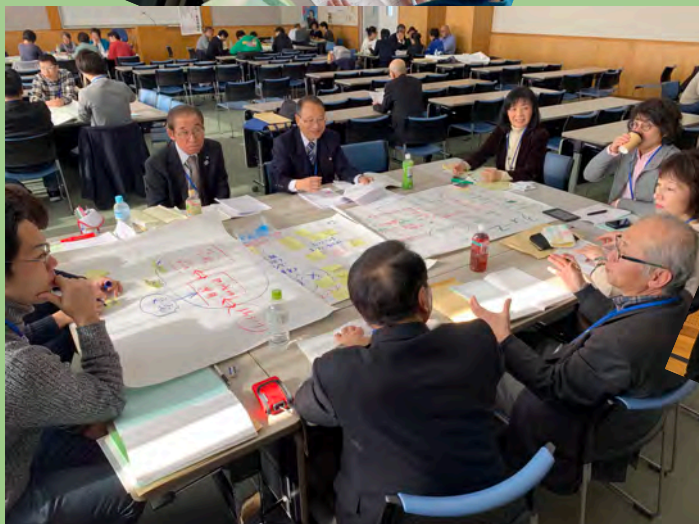
素晴らしい提案ができました。

各グループで与えられた、それぞれの課題について、現状はどうか、課題は何か、どう行動すればよいか、など、いろいろなグループで協議し、話をして研究しました。

最終日の閉校式前のそれぞれの発表では、グループごとに前に出て、それぞれの研究結果について素晴らしい提案ができたようです。



課題別研究 素晴らしい提案を



養成講座を受講して

学ぶ事が沢山あり有意義な時間



山口県 山根和子

この度、ご縁があって青少年育成アドバイザー養成講習を受講させて頂きました。

新受講・再受講者と50人近くの方々が全国から参加されて2泊3日の講義にその間に交流会ととても刺激になりました。

研修では山本会長からの全国青少年育成県民会議の成り立ちや育成アドバイザーの必要性等を始めにお聞きすることが出来て今回の参加の意義を深める事が出来ました。

子ども・大人の精神的・成長・現在社会での課題でもあるSNS・スマホなど研修内容は盛りだくさんで、私自身が相談等を子どもがいらっしゃる保護者の方々からお聞きする事が多くありますのでとても参考になり、全国から参加されている方たちとの交流は、それぞれの地域での取り組みなどを聞かせていただき、学ぶ事が沢山あり有意義な時間でした。

この講習会を終えて、これからどの様に育成アドバイザーとしてこの学びを地域に還元できるか、先輩方にご指導いただきながら活動ができればと思っております。



体系的な知識で補うことができました。



NPO法人Rubyプログラミング少年団 理事長
高尾 宏治(たかお こうじ)

私は島根県松江市で小中学生向けの無料のプログラミング教室を開催している高尾と申します。今回の受講の目的は私達の活動をより良くするために体系的な知識を培うことです。

様々な講義の中で、特に萩原教授の講義③青少年発達過程についての理解と育成課題で学んだ「バーチェ(virtue)=徳、活力」という概念です。人が不信・不安感を与えられたときに自身の「バーチェ」で解決できる。逆に様々な要因で「バーチェ」が枯渇した状態だと、不信・不安感を払拭することができにくい。このため、私達の社会教育活動の中で「バーチェ」を高めるような言葉がけ、行動を取ることが重要になる。なるほど、「バーチェ」を「自己肯定感」に置き換えてみると納得できるのではないのでしょうか。

このように、私達の活動で感覚的に理解していた事象を体系的な知識で補うことができました。その知識を活かして、私達の活動をより良くしていきたいと思っております。



養成講座を受講して

全国の方々と知り合うことができた。



栃木県 樋口 潤

2月22日から3日間にわたって、今回講習会を受けさせていただきましたが、まず思ったのが、全国各地でこれだけの方々が青少年の育成のために熱心に活動されているのか・・・となぜか頼もしい気持ちになりました。

その後、周りの方々と話していくと、地域であったり行政であったり、それぞれの立場で様々な活動をされているのが分かり、またさらにその思いは強くなりました。一人だけではできることが限られますが、周りの方々と協力することで、これまでにない発想が生まれて良い化学反応が起こせるのではないのでしょうか。より良い方向に進み、できることが増えていくはずですよ。

この研修会がきっかけとなり、全国の方々と知り合うことができたので、今回参加されていた皆様とのご縁を大切に、何か連携できることがあれば、お互いが頼り合い、協働していければと考えています。ありがとうございました。



体系的な知識で補うことができました。



大阪府 大橋 良子

今回始めて青少年育成アドバイザーの存在を知り参加させて頂き、講師や事務局の方だけではなく、参加者の方々もとても子どもたち想いで素晴らしいと感じました。

まず、数々の講義では、今まで知らないことが多くあり、それをわかりやすく体系的に教えて下さったことがとても嬉しかったです。

あとグループワークでは、同じグループの方々の地域における個々の問題やその解決の模索のプロセスなど、本音のところを熱くディスカッション出来たことがとても良かったです。

私自身は、これから具体的にどのような子どもたちのための活動をしていくかは確定していませんが、今後地域の方々と活動していく上で非常に役立つ知識や知恵、そして人脈を頂いた講座となりました。ありがとうございました。



養成講座を受講して

子ども達と一緒に取り組んでいきたい。



広島県 長島 さかみ

今回の青少年アドバイザー養成講習を受けて、日本全国から幅広い年齢の受講者、色々な職種の方がいたことや、色々な問題を抱き、様々な考え方を持っていて参加されていることに、大変刺激を受けました。

二日間色々な講義がありましたが、私は地域の子どもたちと接することが多いので、それに関する講義にとっても興味がわいていました。生活体験が豊富な子どもは道徳観や正義感が充実するという講義の内容から、幼少期の体験・経験はとても重要なことであり、その時期に経験できないと他の人と関わって行くことが難しいことや、体制の欠如や連帯感・信頼感の欠如が起こりえることがあるということがわかりました。

子どもたちの体験を充実させるために、地域の環境づくりをし、子どもたちへの機会を意図的に、計画的に提案して、一緒に考えて取り組むことによって、子どもたちの自主性を伸ばしていきたいと感じました。そのためにも、地域の方にも協力していただいで、交流を持ちながら、子どもたちと一緒に行っていきたいと思いました。



平成30年度修了者

1	高尾 宏治	島根県松江市	14	久居 友子	愛媛県松山市
2	樋口 潤	栃木県宇都宮市	15	若洲 直也	愛媛県松山市
3	佐藤 信雄	秋田県秋田市	16	山根 和子	山口県防府市
4	青木 智美	島根県出雲市	17	廣瀬 和子	滋賀県東近江市
5	谷口 大介	奈良県大和高田市	18	山本 孝司	石川県中能登町
6	山元 亮太	滋賀県草津市	19	杉野 美幸	山梨県中央市
7	藤田 健	滋賀県草津市	20	山本 達哉	鳥取県三朝町
8	我如古 隆	沖縄県宜野湾市	21	原田 優司	北海道栗山町
9	宮川 慶吾	長野県塩尻市	22	後藤 貴久子	兵庫県神戸市
10	大橋 良子	大阪市八尾市	23	坂口 朋寛	愛知県豊田市
11	花坂 真喜子	岩手県奥州市	24	石田 侑生	島根県雲南市
12	高橋 弓	岩手県奥州市	25	長島 佐加美	広島県呉市
13	吉田 聖子	岩手県奥州市			

養成講座閉会式あいさつ



皆様、二泊三日の、しかも非常に厳しいスケジュールのなかでの研修、いかがだったでしょうか？多くの講義、グループワークでの研究協議など、お疲れのことと思います。一応・一応研修は終わりましたので、終了証は、お渡しをさせて頂きました。

これから、家に帰り、全国各地で青少年に係る活動をより充実して頂くこととなりますが、この研修で学んだことを小論文にまとめ、これから具体的に何をするかを、分かり易く私達に提出頂かなければなりません。4月14日に第1回のアドバイザー認定審査会を行います。

この審査に合格し、認定料を納めていただくと、認定証と私たちの仲間であることを示すバッチを交付いたします。これでアドバイザーになったこととなります。

しかし、アドバイザーになったから、育成運動ができる訳ではありません。今回のグループワークで研究頂いた事を含めて、身近な地域や団体の中で、自ら進んで青少年と関わらなければなりません。

私の講義の中で、「このままで良いか」「志」はあるか？と皆様に問いかけました。皆様が今まで実践してきたことに、今回の学習を上乗せし、皆様自身で「これから何をするか」その決意を小論文で提出頂きますが、それが「志」であると受け止めさせて頂きます。運動を続ける中で、常に「このままで良いか」と自分に問い、「このままでは良くない」何処が良くないのか、それは何故か、これからどうすれば良いのかを考え、自分自身を磨いて下さい。

一人では心が折れる時もありますので、アドの仲間と交流し、相談し、互いに切磋琢磨し、自分自身を高めてください。この研修で学んだことを心に刻み、迷ったら購入いただいたテキストや今回の資料を紐解き、更に私達全日本アド連のホームページを見て下さい。私たちが向かう目標や具体的な活動が示されています。

受け身の姿勢では、何も生み出すことができません。どうか自ら進んで様々な活動に参加し、時には事業を企画してください。

6月23・24日には広島県福山市で第23回全日本アド連総会と研究集会を開催します。各ブロックやアド組織のある県では研修会・総会がこれから開かれます。どうか進んで参加をお願いします。

又、ありがとう運動のシールや缶バッチ、アドバイザー共通の名刺、更に「のぼり旗」など活用して下さいれば有難く思います。

皆さん、今回の研修で交わり創った仲間を大切に、全国の同志・先輩達と共に精進されることを念じています。

終わりにりましたが、萩原先生・福留先生・相川先生、下田先生、その他ご指導いただきました諸先生、並びに東京会・関東ブロックアドバイザーの皆様にご心からお礼を申し上げて、閉会のご挨拶と致します。

ご活躍をお祈りし、また会える日を楽しみにしております。気を付けてお帰り下さい。有難うございました。